Landscape YAMANASHI

2018年
第31号

ぞうえん山梨

豊かな緑で山梨の未来を創る！

第４回街路樹フォトコンテスト最優秀賞

「緑濃く」　白鳥　正次　作品

（一社）山梨県造園建設業協会

E-mail●info@zo-en.or.jp　URL●http://www.zo-en.or.jp

Facebook で「いいね！」してね

山梨県　造園協会　検索

目　次

■　会長あいさつ・協会の動き　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

■　山梨の緑に想う　北村眞一氏　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

■　まちづくりのセンスを持った人材育成の難しさ　大山　勲氏　・・・・・・・・・・・・・・5

■　特別寄稿　造園を「地域に不可欠な」業（なりわい）にする　蓑茂壽太郎氏　・・・・・・6

■　森林整備事業（植林活動）事業委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

■　やまなし街路樹フォトコンテスト　総務委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

■　京都視察研修報告　企画開発委員会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

■　環境緑化支援事業　技術委員会　・安全協議会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

■　青年部活動報告・会員の表彰　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

■　会員名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

表　紙

最優秀賞：白鳥　正次氏　タイトル「緑濃く」場所： 山梨県庁
本人のコメント：市街地にもこんな大木があったとは…あちらこちらの角度から撮影した中で枝の重なり具合の良い１枚を選びました。
入選理由：白鳥正次氏の写真は、雨上りの緑の鮮やかさと幹の黒さとのコントラストが素晴らしく、樹木が生き生きとしている点、また山梨県庁の名木であるクスノキですが、一見どこの場所かわからないほど視点（アングル）の撮り方が素晴らしく最優秀賞に選定させて頂きました。

（一社）山梨県造園建設業協会

社旗のコンセプト
様々な緑色で「人」の字をつくりお互いを支えあうことで、真ん中に木を浮かび上がらせました。更に山梨の象徴である富士山を表わし、山梨と造園をイメージしました。

会長あいさつ

Landscape YAMANASHI

協会の社会貢献活動について

（一社）山梨県造園建設業協会
会長　石　原　政　人

日頃より造園協会の活動に各段のご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

当協会も一般社団法人化して５年が経過し、造園建設業界の健全な発展と若手技術者の造園技術力強化とともに社会に貢献する人材育成事業や社会貢献事業にも力を注いでおります。

造園技術力強化の一環として昨年は若手技術者を対象に荒廃した竹林から伐採した竹を利用し、古くから伝わる日本庭園の伝統技術である建仁寺竹垣の制作実習を行いました。

また、人材育成事業の一環として県内の高校生を対象に造園技術の出前講座を継続して実施しており、本年からは山梨大学地域未来創造センター北村眞一センター長の協力を得ながら県内大学生の地元定着と新たな未来創造に資する人材を育てることを目的とした「やまなし未来創造教育プログラム」に参画してまいります。こうした活動を通して行政機関や大学等教育機関とも連携を深め、広く県民の皆様から評価を受けられる事業を展開してまいります。

社会貢献事業「きづかいの森」事業につきましては平成21年より富士川町平林地区、平成25年度から甲府市緑ヶ丘スポーツ公園の「湯村山自然観察路」に、平成28年度からは公益財団法人オイスカと協働で山梨市の「ライオン山梨の森」事業および甲州市の「オルビスの森」事業に参画しながら協会の造園技術を活かした支援や技術協力を行っております。

「街路樹フォトコンテスト」では街路樹の果たしている役割について理解を深め、その必要性を再認識して頂くことを目的に実施しており現在、第５回街路樹フォトコンテストの作品を募集中であります。

本年も造園建設業が地域社会に不可欠な地域密着型産業として、なくてはならない存在であることを社会に訴え、また有事に際しましては山梨県と締結している防災協定の履行に協会一丸となって協力してまいります。

最後に本誌に東京農業大学名誉教授で公園財団・理事長である蓑茂壽太郎先生から「造園を『地域に不可欠な』業（なりわい）にする」と言う表題で、ご寄稿頂きましたので是非ご一読願います。

協会の動き

Landscape YAMANASHI

平成29年度 第５回定時社員総会開催

平成29年４月25日造園建設業会館において第５回定時社員総会が開催され総会に先立ち来賓として出席した県土整備部都市計画課丸山裕司課長から祝辞を頂いた後、造園事業功労者表彰が行われ(株)石原グリーン建設・奥山文雄、山梨ガーデン(株)・一瀬仁、(株)富士グリーンテック・榊原隆司、(株)河口湖庭園・宮下康弘、(有)須田造園・穂坂翔の５氏が石原会長より表彰された。

総会では平成28年度決算報告が全会一致で承認され、役員改選では執行部が提案した理事10名、監事２名が選出され、臨時理事会の後、引き続き石原政人氏が会長を務めることとなった。

また平成29年度事業計画、平成29年度事業予算についても全会一致で承認された。

Landscape
YAMANASHI

山梨の緑に想う

山梨大学　地域未来創造センター
センター長　北　村　眞　一

県内の庭園や公園、街路樹や緑地、街角の巨木などの歴史を振り返り現地を見て歩くために、山梨の緑の歴史や技法、事例などのデータベースを整えられると良いと思っています。

まず庭園ですが、樹や草の成長や枯れ死、所有者・管理者と技術者の交代、災害などによって、その形は短期的・長期的に絶えず変化するものです。また設置された場所の用途や意図が変われば、変形や消失もありえます。

県内に残る古寺の一つである東光寺の庭園の復元整備が行われ、平成９年（1997）に報告書が作られています。平安時代に創建された東光寺の庭園の場合は、建設当時の原型、鎌倉時代に再興した蘭渓道隆の作為、寺の焼失などによる影響などはあるものの、庭園は原型に近く残っていると推察されます。

▲東光寺の庭園
（本堂と書院から眺める庭）

日本庭園は県内でも寺院の庭に限らず私邸や都市公園にも少なからずあり、また作庭にあたった庭師も県内の地域ごとに系図があり、組合の歴史も残っています。昭和60年（1985）には「山梨の庭園史」（山梨県造園技能士会編・発行）として日本庭園の歴史がまとめられています。

庭園も戦後の生活の洋風化、グローバル化の時代を迎えて、都市公園の建設をはじめ、伝統的日本庭園から、洋風の庭、中国様式やイングリッシュ・ガーデンなどエスニックな庭、あるいは伝統と切り離されたモダニズムの庭に加え新しいガーデニングの植栽手法の利用へと多様化しました。

もう一つの大きな展開は街路樹です。伝統的な街道や都市の並木は、奈良時代からありましたが、江戸時代の土手の桜並木などに引き継がれ、横浜の馬車道の近代洋風の街路樹が輸入されて、銀座の柳など洋風の都市建築と並木の整備が行われるようになりました。

▲平和通りのケヤキ並木

山梨では、戦災復興土地区画整理事業で造られた平和通りは、幅員３６ｍの６車線と広い歩道からなり、昭和61年（1986）の「かいじ国体」開催に向けて、南北の駅前広場と合わせて、相生交差点まで整備されました。そこには中央分離帯のシラカシに加え、ケヤキの巨木の並木が造られました。近年カラスの害がありましたが、アーケードを撤去して、２列の並木が、駅前広場の再整備と合わせて計画されています。

この他にも、街区公園など都市公園、史跡周りの風致公園、スポーツなど運動公園をはじめ河川緑地、山林など自然を中心とした公園緑地やビオトープ、民間では工業団地など施設の緑地や緩衝緑地、庭の緑、鎮守の森、ゴルフ場など多くの緑の空間があり、興味深い造園の手法が用いられています。まずは個々の施設の緑の事例と技法がまとめられ紹介できると良いと思っています。

さて山梨大学では県内８大学と横浜市大で協働の「やまなし未来創造教育プログラム」を進めています。これは４つのコース（ツーリズム、ものづくり、子育て支援、CCRC）と地域教養を学ぶものです。地域教養の中でも「フューチャーサーチ」という科目の「Miraiプロジェクト」という、企業が取り組むプロジェクトに学生が参加する長期インターンシップがあります。造園建設業協会からも、学生と取り組むプロジェクトの提案をいただければ幸いです。

まちづくりのセンスを持った人材育成の難しさ

Landscape YAMANASHI

大　山　　勲

山梨大学生命環境学部副学部長
地域社会システム学科教授
山梨県建築審査会、山梨県景観アドバイザー
甲州市・中央市・昭和町・南アルプス市など
各地市町村の景観審議会・都市計画審議会委員

「まちづくりを担う人材の育成」

34年前、当時私の恩師であった山梨大学教授の花岡利幸先生から住民が主体となり行政と協働して進める地域づくり＝「まちづくり」を学んだ。特に「現場が全てを教えてくれるという教育方法」を強く心に刻んだ。地域に密着する態度は先生の恩師である鈴木忠義先生（さらに恩師の本多静六先生）から受け継いだと聞いた。そして16年前に研究室が独立した頃から、学生を現場に連れて行き住民の方たちと一緒に実践する活動を本格的に始めた。学生は卒業論文を書くために研究室に所属するが、私の研究室では卒業論文に割く時間以上の時間を現場での活動に費やした。卒業の単位にはならないにもかかわらず、全員の学生が主体的に活動した。すぐに研究室以外の参加希望者も増え１～３年生も参加した。先輩の背中を見て後輩が育つ良い教育環境が自然に生まれた。まだ当時の山梨は住民と行政の協働は両者とも嫌がっていた時代だった。信頼関係ができ土壌が整った市町村や地域にお願いして学生を参加させてもらった。必ずしも楽しい活動だけではなく、ワークショップでは行政批判で議論が先に進まず複雑な人間関係を見る場面にも遭い、学生がまちづくりを嫌になってしまうのではないかと心配したが、その心配は不要だった。現場のリアリティーは学生を育ててくれた。ここで学んだ卒業生の多くがコンサルタントや地方自治体などで現在もまちづくりを仕事として活躍している。

学生が関わった活動は、「住民ワークショップへの参加や運営のファシリテーター（円滑な進行役）」「先進地視察、先進的な活動をしている人たちと会い、現場を見て、交流会等で本音の話を聞く」「学生と住民が一緒にアイディアを出し、活動を実際にやってみる」の３つが同時並行的に進んでいた。

「学生の意識に異変」

私の教育方法は「レールは敷かず（実はある程度は敷いているが見えないようにし強制しないようにして）学生の主体性を引き出す（私は出来るだけ言わずに我慢）」しかし主体性と言っても学生が地域の現場で勝手に好きなことをするのではなく「地域の住民の方と協働すること」を条件にした。私も試行錯誤だったが、行動の見本を示し、学生がそれを見て学ぶような形だった。学生にとっては「先が見えない」し「大人たちと関わらないといけない」ので，ハードルが高く見えたようだ。

10年前頃には「まちづくり」という言葉が当たり前になり、「まちづくり活動」と謳う様々な学生参加の活動が見られるようになり、地域住民と関わらずに学生だけで楽しく活動する、学生の提案だけといったものが多く現れた。私のまちづくりの現場への参加者は減り、学生は気楽だけど作業量は多い他の活動に没頭していった。そして学生をまちづくり現場に受け入れたいという土壌の地域が増える中、参加学生がいない事態に陥った。

「地方創生とＣＯＣ」

３年前から地方創生の国の政策がはじまり、山梨大学でもCOC（文科省のCenter of Community：地（知）の拠点整備事業）が２年前から本格的に始まった。地域社会と連携して地域の課題を解決できる人材を育成する教育を強化しようというものである。私もCOCの授業の担当となり、35人の学生が集まった。

私はこれからの地方の自立を助ける人材の能力は「主体的に行動できること」「地域と協働し、地域の主体性を尊重できること（そのためのコミュニケーション力）「実践し改善するPDCAサイクルを回す力（課題解決のために自ら学習する力）」であると考えた。そこで従来よく用いられる学習方法（基礎学習→課題発見→事例調査→解決策提案）ではなく、「体験する、特に先進を見る・先進の人に会う」を先行させ、その後に「地域の調査・課題発見・解決策提案」にとどまらず「地域の方々と協力して提案を実践・試行する」ことまで行い、その過程で必要になった知見は「自ら学習」する、という方法を考えた。学生の主体性を引き出すため自由度の大きなテーマを設定し「地域資源を発掘しそれを活かす観光を考えよ（観光の形態は問わない）」とした。先進地視察、既存観光企画の体験、課題対象地の調査学習（専門家による解説）、を多数（100回）用意した。延べ参加者は302人回となった。秋頃までに３つのプロジェクトチームができ、住民と相談しながら企画を実践した。その後、２月にこれらの成果を先進地で発表し、先進地で活動する学生や先進地住民・行政との交流をおこなった。

残念ながら多くの学生が「実践」の段階になったとたんに脱退していったが、６人が最後までやり遂げた。百聞は一見にしかず、先進地の頑張っている方たちとの交流が学生を目覚めさせた。自分たちの企画を実行した体験をしたからこそ先進地の方たちと語り合うことができ、まちづくりのセンスを得てくれたように思えた。

Landscape YAMANASHI

特別寄稿　造園を「地域に不可欠な」業（なりわい）にする

蓑 茂 壽 太 郎
みのも としたろう
農学博士・RLA フェロー・東京農業大学名誉教授
（一財）公園財団理事長
熊本市都市政策研究所長
（一社）ランドスケープアーキテクト連盟会長
東京農業大学教授・副学長
公立大学法人熊本県立大学理事長などを歴任

造園業を美活同源の産業と呼ぶ

造園というと庭師か植木屋として見られるのが一般的だ。庭師や植木屋は江戸から続き、「造園」は明治以降に考案された用語で、伝統的な産業としてみるとその傾向が強い。別に悪くはないが、庭師も植木屋も『地域に不可欠な業』の印象に欠け、『贅沢の業』と受け取られ不都合なこともある。公共造園が山場を越え、このままでいいのか。「たかが庭師されど庭師、たかが植木屋されど植木屋」である。庭師だ、植木屋だと一々騒ぐことはないかもしれないが、実はこれが大事なヒントをくれると思う。○○庭園や○○植木の屋号の多さが、このイメージにつながる。仕事の本拠地を東京から熊本に移した12年前のこと、着任後のいろいろな機会に「始めまして」の言葉を交わすと、「ご専門は造園だそうですね」と返ってくる。その眼差しは、狭い造園、庭師や植木屋の印象だった。「私は庭師ですが、私が扱う庭は阿蘇のカルデラの様な大きな庭なのです」とか。「私は植木屋ですが、脚立を積んだ軽トラックで走り回る仕事の経験はありません。しかし、コロと滑車で樹齢100年、重さ100トンのクスの大木の立曳きを築城400年の熊本城の足元で是非やってみたいですね」と冗談交じりの会話があった。しばらくして造園の仕事は、美活同源で表現できますと造語で提唱した。

歴史のある老舗の造園業の場合は、植木屋か庭師のいずれかが原点で、美しい庭や見栄えのする樹形の植木を育てお客様に届けてきた。美を設え元気を取り戻す業である。商いでなくもてなしの業だ。これが昭和４０（1965）年代以降創業の造園企業の場合は、多くが緑化屋で始まっている。建設業の一種で緑を扱うと特定された。小土木や小建築もできることで造園土木や緑地建設が屋号に使われるようになった。道路緑化や工場緑化、ゴルフコース修景で発展した企業も少なくない。活力ある地域づくりを美しい風景というレンズを通して成し遂げてきたのが造園業、だから美活同源の産業なのである。美しくすることと活気ある場所にすることが同じ原点を持っている。この美活同源の思想の下、2018年の具体的戦略の一つを提唱したい。

▲緑化地も50年でグリーンインフラになる
（多摩ニュータウンの環境保全林）

造園業の現状と課題　―働き方改革と次にある生産性向上―

造園業、少し広げて建設業を取り巻く課題について考えてみましょう。政府が大きく取り上げ、マスコミにしばしば登場する「働き方改革」に目を向けます。残業や休日出勤などの長時間労働を問題視することに始まる働き方改革は、労務管理や社会保障など多様な事項に及びます。改革の旗印だけで成果が見えないのが現実。いきなり改革は無理で一つ一つ改善を積み重ねることで改革に向かう。この認識が順当だと思います。改善無くして改革なしです。

働き方改革の議論では、人口減社会という根本的な要因がまず総論的に指摘されます。30年後には国の人口が１億人を切る自然減、これは1992年以降に強く懸念された少子化の影響で、その推移は25年になりました。人口減は特に地方で顕著になります。若者が最寄りの大都市へ流出する社会減が重なるからです。少子化世代が生産年齢に達すると労働人口が不足し、人材確保に尋常でない競争が起きます。これまでの社会通念《退職・年金生活・高齢者の仲間入り》の年齢を60歳から65歳に上げても労働人口不足は避けられません。生産年齢の引き上げを視野に入れようとの前触れが「70歳現役社会」や「80歳現役社会」さらには「100

歳人生論」です。

造園界にも人材不足が来ています。専門教育を受けた新卒人材を求めても応募すらないと聞きます。人材不足が続くと人財が途絶えて経営の担い手がいなくなります。労働力不足を機械化やＩＴで補うのも一つです。その可能性と限界性を並行して検討する必要があります。人手に頼るところと、そうでないことの峻別を進める。人力による造園作業が、種々機械化されたことは承知の通り。この機械化とＩＴ化を直近の課題に設定することを協会に提案します。単純で形式化された造園作業をＩＴ搭載の自動制御機械で実施できるようにする。これを協会の戦略ビジョンにしてはどうでしょう。

次に、働き手の取り合いが起こり、同業種だけでなく異業種間での競争が顕著になっています。人を確保するためには快適労働環境が一番です。気持ちよく働けることです。物理的環境と社会的環境の両面から考えることになりますが、これについても造園業の特性に合わせて考えるのが鉄則です。勤務の拠点・会社と仕事現場とが離れていることが多く、実労働時間と拘束時間との間にずれが生じるのが造園の仕事です。このことを踏まえ残業時間の扱いと短縮、有給休暇の消化、週休２日制の完全実施に向かうことを大事な課題としましょう。そして３つ目に女性の働き方改革です。父親を含めた子育て支援を子供の遊び場のプロ集団・造園界の重点課題にすべきです。子育てサポートの完璧化で女性の働き方改革は進み、造園界に女性が定着できるようになります。女性が参画できる産業体にする意義は、労働力数の面だけでなく仕事の質に及びます。男性だけでは気付かない女性の視点を造園界に導入することになります。これにより人権意識が高まり造園産業の最大化が図れると信じます。一つ一つこれらにチャレンジしていく姿勢が重要です。

▲公園財団作成の子育てサポートブック
（組織改革は一歩一歩の改善から）

働きの量と質、生産性向上に向けて

日本人は働き蜂、良く働く国民と称賛されてきました。第二次大戦の同じ敗戦国・ドイツ（主に旧西ドイツ）人の労働に関する著書・「熊谷徹（2015）：ドイツ人はなぜ、一年に150日休んでも仕事が回るのか」があります。これによると彼らの仕事の成果は日本人の１．５倍だそうで理由が紹介されています。要点は労働生産性で日本人はドイツ人より相当低いそうです。時間を犠牲にお金をもらうだけの人生に疑問が見え、ワーク＆ライフバランスが大きく取り上げられています。長時間労働によるメンタルな病で自らの命を絶つ社会問題から伝統の日本型雇用システムが危機に直面しています。

造園界から「しっかり働きしっかり休む」の流れをつくりたいものです。「しっかり働く」は効率よく効果的な働きを意味します。「しっかり休む」の意は、休養をとり次の働きのエネルギーを補給することに他なりません。無駄な通勤時間を消費しているようならテレワークを組み込むことで効率的な勤務体制となり効果を上げることができます。このとき肝心なのは各人の自己管理で、行動の善悪を日々自分で律する自律が不可欠です。

種々の改革、その前段の改善に取り組むには資金も必要です。大企業ならともかく、中小の一企業の経費には限度がありますので企業間協力が欠かせません。現状からみて造園業の一企業で出来ること、県造協レベルで実現するもの、さらに全国レベルの協会が行政の支援を得て取り組む課題、組織の段階に応じた対応が必要です。こうした動きが山梨から全国に普及することで、造園界の働き方改革が確実な一歩を見るのを実感したいものです。

造園の業、その分業体制は持続可能か

造園の仕事は、一連の流れを持ち、それを特徴とした業で、ちょうど一筋の川のようです。大きなプロジェクトは大河で、小さなプロジェクトは小川に例えることができます。造園職能は上・中・下流と役割分担してリレーされています。上流で事業を企画構想し、これに続くのが中流上部の計画・設計職能、そして建設整備する人が中流にいて、下流が管理運営する人になります。この流れがこれからも正しいかはともかくとして、職能隆盛の推移はそのようでした。河川の場合、海まで流れた水が海洋で蒸散して空に上り雲となり、降雨となって陸上に降り、再び一筋の川になる水の循環系を維持しています。造園職能の発展展開を捉えると、公園

に対する社会の理解がない時代は企画構想を立てる人に注目が集まりました。しかし、公園整備が当り前の時代になると、その仕事の価値は下がり、次の計画・設計の使命と需要に移りました。そして造成整備に期待は移り、現在は管理運営に重心が移行してきています。

現在のような混乱・混迷期に造園産業論を議論するなら、先ほどのように上中下の分業化したままでよいのかの疑問です。川の上流と中流との区分、中流と下流との区分がきっちりと一線で切れないように、実はこうした区分は重なり合っているのが良いように思います。ある程度の統合が必要な時期にきているように思われます。造園業を専門分化だけでなく、総合の業にしていくことで地域産業になり得るのではないか。このように造園業を捉え直すのは如何であろうかと思っています。

▲熊本初の立曳で河川改修に伴うクスの大木を移植
（大手企業が地域企業に伝統工法の技術移転）

地域に「どうしても必要な業」へ

山梨県造園建設業協会は会員数をみると３３社になります。しかし、この数は地域で営業する造園業者の約４割程度と見込まれ、これよりかなり多い数の造園企業が当該地域で活動をしています。そこで最後に、この数の企業を地域になくてはならないものにするためにどうすればいいのかについて考えてみました。地域造園業五か条の御誓文の下書きです。

第一条　地域に常駐する産業体

協会では、災害時支援協定（県2009国2016）を締結しています。この協定により豪雪時の除雪支援や台風後の対応等様々な災害でも有効活用されるはずです。３年前の山梨県の記録的な豪雪では協会の支援活動が評価され県知事から感謝状が贈られております。日本列島大災害時代を迎えて、安全・安心を支えるのが全国各地に常駐する造園建設業で、即座に出動できる体制から役割大であります。非常時のみならず、地域常駐の産業体としての造園企業を幅広く周知すべきと思います。その一つとして、人口減少下で、休耕田に続き空き家対策が課題になっていますので、森林整備協定も山梨県造園建設業協会の取り組みですが、その延長で空き家付随の空き庭をまちづくりにどう活かすか？山梨空き庭再生プロジェクト、政策的には空き庭条例を考える。これも地域常駐の産業体を印象付けるに適していると思います。

▲熊本地震造園支援研究体の集会
（若手造園技術者が「学び・考え・行動する」で活動）

▲被災した熊本城の石垣
（石垣の復旧復元には２０年の歳月を要する）

第二条　地域に精通した産業体

山梨県は、世界遺産の富士山、南アルプスの眺望、信玄堤やブドウ畑と、多様な特徴ある風景に満ちています。自然景観から人為景観まで、造園を業とする人にとって都合の良い地域です。富士山遠借の庭を設えている人も多いでしょう。八ケ岳の連続する稜線が好きな人もいるでしょう。信玄堤を目の前にするとレジリエンスの意味が納得できます。ブドウ畑の風景はライン川の左右に拡がる風景を連想させグローバルな発想に誘ってくれます。地域に精通すると次は世界に目を向けたくなるものです。それが造園に携わる人の本性のように思います。全国どの地域でも造園人の頭には地域の地図があり、ナビ無で動けます。加えて地域の人のネットワークが密で、事物を調べる社会関係資本・ソーシャルキャピタルが備わっています。自ずと信頼性や互酬性が生まれ、それが地域の規範となっています。造園業はそうした地域性が資源となる産業なのです。せっかくの地域性を活かさず全国標準化により、逆に壊してきたこれまでの反省に立ち、風景を調えることが重要で

す。文化財庭園や古くから地域に伝わる造園遺産に取り組むのも地域精通の便なのです。

第三条　地域人材を活用する産業体

造園業の多くは家族経営です。父親の代から私の代に変わって何年という人もいるでしょう。家族経営・ファミリービジネスの強みは、長期の視点で企業としての経営ビジョンが描けることです。不変の価値観がもたれ合い体質に陥り、主要な経営幹部を一族で占め客観的な人事が困難な点が指摘されます。株式の新規発行・増資をせず、銀行借り入れに依存する傾向があり、これが過ぎると銀行が関与し自立した意思決定ができなくなります。強みを生かし弱みに気を付けるなら、優秀な地域人材の活用が可能です。人口流出が懸念される中で、地元の若者を引き留めることが造園企業にはできます。その一助として地域の教育機関との連携があります。日本造園建設業協会は43年の歴史を持つ全国造園デザインコンクールを実績に、全国高等学校造園教育研究協議会と人材育成等で包括協定を締結（2017）しました。山梨には県立農林高校もあり、ここの造園教育は高い水準にあります。福島市で「海外の日本庭園を学び・考えるシンポジウム」を開催（2017）し、会津農林高校の生徒が参加し地域人材活用の可能性を感じました。人を育てる地域力が重要です。高校進学率90％時代の高校教育政策が問われ、各県にある国立・公立大学の地域貢献が試されています。遠くに通わなくても学び足し学び直しができるＣＰＤセンター等が欲しいと思います。

▲熊本県立大学に設置されたＣＰＤセンター
（知識基盤社会の到来を見越し、
地域で学び足し・学び直しを）

第四条　地域づくりの意欲が大きい産業体

1976年設立の当協会は1994年に社団法人化し、2013年の法人改革により一般社団法人になり、現在は公益支出事業に果敢に取り組んでいます。また会員個々人としては、青年会議所や消防団活動など地域の様々な活動に参加していると思います。そのようなポテンシャルないしはＤＮＡを持っているのが造園業です。地域に精通し、地域を大事にする心を持ち地域を愛することがこれからは大変重要です。地域を大事に思うことと地域モンロー主義は違います。井の中の蛙大海を知らずでは困ります。あいまいな所で妥協せず、本物を学ぶ、その道の専門家も交えて地域づくりに取り組む強い意欲を期待します。

そこで、以上４つを「地域でどうしても必要な業」の必要条件とし、これに十分条件として次の一つを加えておきたいと思います。

第五条　視野が広い産業体

視野を広げておかないと、周りの人が相手にしてくれません。知識基盤型社会が到来しているからです。造園業はほとんど知られていない産業なのです。その案外知られていない造園業の理解促進に取り組むのも造園の仕事の一つです。いろいろなやり方がありましょうが、一つ挙げると、やがて100周年を迎える日本造園学会に親しむことで、震災の歴史と一緒に歩んできた造園の意義が解り、これを話題に話をすることができます。サンデーモーニングに登場する涌井雅之氏も造園家として幅広の発言を繰り返し多くの共感を集めています。仕事の流儀に出演した京都の北山安夫氏も然りです。

戦略マネジメントのススメ

協会の役割は、戦略づくりの素となる知識を学び、それを生かした展開を地域に即して考え、その中で実行可能なことから順に行動することだと思います。学び・考え・行動すると要約できます。その一つとしてこれからの造園は、土木との連携、建築との連携を必要とします。そうなると土木や建築のイロハについてある程度の知識を学ぶ必要があります。建築の設計施工ができなくても良いのです。良い建築とは何か。土木についても自然にやさしい土木とは何かを学ぶことです。丁度、小説は書けなくとも読書を楽しむのと一緒です。何かとのコラボレーションも一つです。農業と、リゾート産業と、観光と・・・・。人口増社会での産業から人口減社会の産業に移行できるかどうかも重要です。大名屋敷の庭師が庶民の庭師になり、再び戻るのか。二地域居住が通常化すると、これも全くの瞑想ではなくなります。新しい年もいろいろと造園界の戦略マネジメントを考えることにしましょう。

Landscape
YAMANASHI

森林整備事業（植林活動）

甲州市・オルビスの森

平成28年から公益財団法人オイスカと協働し「甲州市・オルビスの森」里山計画に参画しています。昨年度は整地、耕運、大苗100本の植林指導を行い、本年も活動を引き継ぎました。

▲開会式

３月18日、元々は田んぼで地面が見えないほど雑草が生い茂った土地を、当協会員17名、重機12台で雑草の撤去、整地・耕運作業を行いました。４月15日、オルビス（株）社長以下82名、甲州市役所副市長以下４名、オイスカ４名、峡東森林組合１名、当協会員17名が参加し、ヤマザクラ大苗他80本を植林しました。近い将来、春はサクラの花と新緑、夏は森林浴、秋の紅葉、冬の眺望というように四季を通じてたくさんの人々が山を楽しんでもらえる里山になるよう取り組んでいきます。

▲植栽指導風景

▲整地・耕運作業

▲植林風景

▲植林後

山梨市・ライオンの森

▲参加者集合写真

平成27年度よりオイスカと協動し「山梨市・ライオンの森」森林整備活動に取り組んでいます。昨年度は丸太柵用丸太の加工、丸太柵設置や河川整備を行いました。４月21日、当協会が整備した「小川の岸辺」にて、八幡小学校５年生、ライオン社員とともに低木80本、地被植物400株を植栽し、午後は「八幡の森」の枝打ち作業指導を行いました。翌日植栽した箇所へ獣害防止のネットを張り、河川流域の樹木の伐採や整理を行いました。森林整備活動を通し、水や環境の大切さ、その保全にも取り組んでいきます。

▲作業の様子

甲府市・つつじヶ崎の森

３月19日、10年前に植林した樹木の生育を良好に保つため、林野庁山梨森林管理事務所小川所長、オイスカ２名、当協会員８名が参加し、国有林の下草刈りを行いました。

竹材・木材・石材販売
笠井造園資材 有限会社
〒409-3866
山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5
TEL：055-275-2842 FAX：055-275-5554

総合造園緑化資材、石材砂利、越後の刃物、卸販売
有限会社造園資材センター
〒400-0054 甲府市西下条町1346-1
TEL：055-220-2553 FAX：055-220-2554

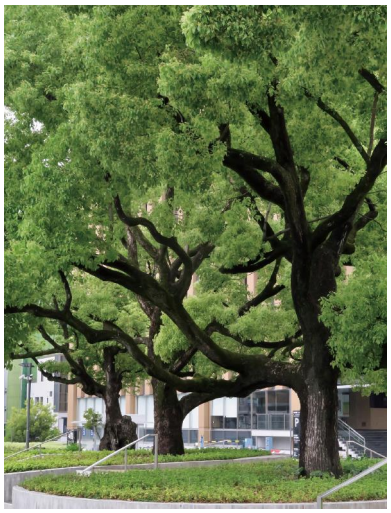
第４回街路樹フォトコンテスト

Landscape YAMANASHI

都市空間において良好な景観を形成する街路樹・公園樹の果たしている役割について理解を深め、県民の皆様に緑の大切さと必要性を知ってもらう取り組みとして、平成25年から「やまなし街路樹フォトコンテスト」を実施しています。

平成29年８月10日、造園会館にて審査会を開催し、応募作品55作品中から最優秀賞１点、優秀賞３点、入選10点を決定しました。

表彰式は８月29日山梨県立図書館にて開催し、県土整備部景観づくり推進室山本修室長より、最優秀賞（知事賞）が授与されました。



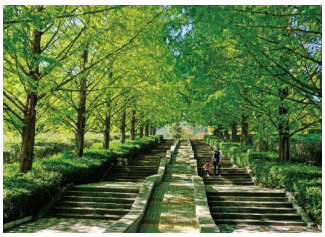
▲最優秀賞　「緑濃く」
白鳥　正次　作品

▲知事賞授与の様子

▲受賞者記念撮影

入選作品

上位14作品の中から最優秀賞１点、優秀賞３点、入選10点決定しました。



優秀賞　「二人の時間」
岡田　泰文　作品

優秀賞　「夜桜」
志村　茂雄　作品

優秀賞　「おみゆきさんが行く」
高橋　正仁　作品

入賞　古橋隆宏　作品

入賞　嶋　輝子　作品

入賞　沼倉　司　作品

入賞　星野郁男　作品

入賞　井上富士夫　作品

入賞　小林秀次　作品

入賞　横谷建次　作品

入賞　岩澤文男　作品

入賞　広瀬　修　作品

入賞　佐野ふたみ　作品

今年で５回目をむかえ現在も作品募集中です。

第５回フォトコンテスト募集チラシ

やまなし街路樹
フォトコンテスト作品募集中
見慣れた風景の中にある街路樹いつもと違う視線で観てみよう

詳細はwebで！
http://zo-en.or.jp/contest/

Landscape
YAMANASHI

京都視察研修報告

11月5日～6日、協会員24名が参加して京都視察研修会を実施しました。一日目は東寺・桂離宮・修学院離宮・嵐山付近など各班に分かれ、二日目は全員で南禅寺周辺の視察を行いました。なかでも南禅寺のご厚意で一般には公開されていない大寧軒を見学させていただき、琵琶湖疏水を活用した様々な苔が生育している庭園や置石の配置など庭師の話は大変参考となりました。以下は各班レポートです。

▲視察参加者全員

▲州浜

▲天橋立に見立てた景色

▲東寺の庭園　視察の様子▶

《桂離宮を訪ねて》

宮内庁の職員の先導で回遊式庭園や数寄屋造りで創建時から400年変わらず、手の加えられていない茶室や書院、新御殿などの建物を観て回りました。

桂離宮の正門に当たる御幸門から御庭が見えない様に配置された外腰掛から松琴亭、賞花亭と進むと一気に視界が開け、見事な庭園が姿を現します。宮内庁の方のまったりとした京なまりの解説を聞きながら歩いて行くと茶室から見える池や中島、洲浜、天橋立に見立てた景色など園路を進むごとに景色が変わっていきます。秋の澄んだ空気のなか遠く平安時代から続けられてきた高貴な方々の舟遊びに使われた笑意軒、季節ごとの月をめでる観月の庵、月波楼の池と月見台など荘厳で雅な桂離宮を満喫してきました。

▲視察の様子

《修学院離宮を訪ねて》

10世紀後半に修学院という寺が建立されたのが始まりで、南北朝時代に廃絶したが、地名としてその名が残り、1659年頃に後水尾上皇によって山荘が造築され、そのあと上、下の御茶屋を建設、その後、増改築なされ、明治18年に各離宮などが宮内庁の管理のもとになり、昭和39年に上（かみ）、中（なか）、下（しも）の各離宮の間に展開する8万㎡の水田畑地を買い上げて付属農地とし、整備し、景観保持をも万全を期して今日に至っています。

▲池を配置した日本庭園

▲庭園風景

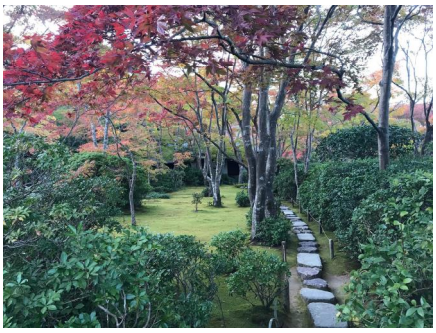
敷地に足を踏み入れまず初めに、赤く色づき出した庭園を見て「素晴らしい」の一言しか出ませんでした。御茶屋周りの日本庭園、松並木、段々畑の田園風景、周囲400ｍ程度の池を配した日本庭園など約3㎞を視察しました。広大な園内ながら生垣、大刈込もバリカンではなく、ハサミで手入れがされており、丁寧な仕事に感動しました。また、若木のマツなども植えられおり、将来の景観を考慮した植栽技術も参考になりました。

視察を終え、造園に携わるものとして我々も後世に残せるような庭園の維持管理ができるように努力していく必要性を感じました。特に庭園の管理では現状を維持するだけでなく、将来を十分に考えて提案、作業にあたることが必要と感じました。

▲視察の様子

▲大寧軒苔の庭園

▲庭師の話を真剣に聞く様子



▲大河内山荘の庭園

STIHL®
緑化園芸機材・林業/農業機械・鳥獣害対策機器・刃物
森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機
保冷庫・木材加工機材・保安用品(スパイク付ブーツ等)
高圧洗浄機・法定猟具・キノコ菌類・食品乾燥機
地球への愛、人への優しさ。
当社は優れた品質で社会に貢献します。
山梨スチール株式会社
〒400-0047 山梨県甲府市徳行4丁目13-5　http://www.yamanashi-stihl.co.jp
TEL:055-226-3656　info@yamanashi-stihl.co.jp

ACERA 株式会社アセラ
自然と化学の調和を求め、
技術アドバイスで農業をリードする。
〒400-0826 山梨県甲府市西高橋町156番地
TEL 055-235-1968　FAX 055-232-2033

Landscape
YAMANASHI

環境緑化支援事業

【竹垣講習会】

▲作成風景

県内各所で耕作放棄地や山林で竹林が増加してきており、伐採が必要になってきています。また竹材については伐採してもその利用はごく一部に限られており、利活用が進んでいない現状があります。そこで、４月10、12日山間部に自生していた間伐材（竹）を利用した竹垣製作講習会を開催しました。間伐で発生した竹材を利用して造園協会の若手技術者を対象に伝統的な造園技法である建仁寺竹垣を、(株)早野組資材置き場外周（約40ｍ）に設置しました。竹割作業から始まり細断加工及び組立設置までの全工程を行い、後日防腐塗料を塗布し終了しました。本来ならば廃材として処分される竹を有効利用し、身近な生活空間に造園技術を駆使した景観づくりができたと感じます。今後もこのような講習会をつうじて、若手造園技術者の育成はもとより、地域の景観づくりに貢献していきたいと思います。

【まち・みどり】

▲完成した3基

８月５日ＪＲ甲府駅南口指定喫煙場所へ、まちみどりを３基設置しました。分煙化の進む昨今、たばこを吸う人と吸わない人の共存及び周辺の景観向上を図るため、植栽帯の無い部分へ緑の設置となりました。このような移動可能な緑を更に増やし、身近な空間を緑で彩り県民・来県者等にやすらぎと潤いを提供しています。

【人材育成】

▲制作の様子

近年造園業界においても人材確保が急務とされています。若い世代に就業してもらうため、協会では、県内唯一の造園専門課程を有する県立農林高校に於いて、１・２年生を対象とした出張講座を開催しています。１月26日は、１年生は製図の基本を、２年生は、サンドガーデンの製作を行いました。普段の授業では、経験のできない内容に学生たちは目を輝かせ課題に取り組んでいました。今後もこの取り組みは継続していきますが、更に業界について興味をもってもらい就業できる環境創りの為活動を広げていきたいと考えます。

Landscape
YAMANASHI

山梨県造園安全協議会

安全大会：７月25日造園会館にて、県技術管理課長田守技術審査監にご列席いただき、協議会員56名が参加し安全意識の向上を図りました。各支部から安全パトロールの結果報告を行い、優良企業担当者として(有)清水造園・清水嘉文、野尻造園建設(有)・宮澤敏人、山梨ガーデン(株)・雨宮浩史の３名を表彰し、また作業現場で生かせるよう、FP&コミュニケーション代表の上村直子氏を招いてチーム内の合意形式の過程をゲーム形式で学びました。

▲表彰された3名

青年部の活動報告

Landscape YAMANASHI

技能講習会

平成29年7月15日、部員19名が参加。日立建機研修センタ山梨教習所の講師による「振動工具の取扱者に対する安全衛生教育」講習会を開催しました。

やまなしクリーンキャンペーン

9月29日、部員20名が参加。甲府駅南口にて花・ハーブ・野菜の種1000袋とフォトコンテストチラシ等を駅利用者・周辺住民に配布しながら、環境美化を呼びかける街頭キャンペーンを行いました。

山梨県林業まつり～森林のフェスティバル～

10月21日、部員20名にて出展参加。「やまなし街路樹フォトコンテスト」受賞作品の展示や、樹木・苗木・野菜の販売を行いました。また、全国造園フェスティバルの広報活動として花の種を無料配布しました。

▲技能講習会の様子

▲クリーンキャンペーン

▲山梨林業まつり参加者

▲駅前ＰＲ活動の様子

表　彰

Landscape YAMANASHI

山梨県環境緑化功労賞

（株）芝保
代表取締役　**藤原辰男氏**

当協会理事・企画開発委員長である藤原辰男氏は平成29年10月21日小瀬スポーツで開催された山梨県林業まつり記念式典において環境緑化推進の功績が高く評価され後藤斎山梨県知事より表彰された。

建設雇用改善優良事業所 山梨県知事表彰

（株）仲村造園
代表取締役　**仲村清輝氏**

当協会理事・技術委員長である仲村清輝氏は平成29年11月21日アピオ甲府で開催された平成29年度建設雇用改善推進大会において優良事業所として山梨県産業労働部・佐野産業労働部長から知事表彰を授与された。

建設雇用改善優良事業所 建設産業団体連合会会長表彰

河野造園土木（株）
代表取締役　**河野嘉孝氏**

当協会専務理事・総務委員長である河野嘉孝氏は平成29年11月21日アピオ甲府で開催された平成29年度建設雇用改善推進大会において優良事業所として浅野建設産業団体連合会会長から表彰された。

一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております！
http://www.kouyo.jp/
街のどこかにKKL
AKTIO グループ
甲陽建機リース株式会社
本　　社●〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797　TEL055-237-7801
リース事業部●〒400-0815 山梨県甲府市国玉町797　TEL055-237-7821
韮崎ハウス工業●〒407-0033 山梨県韮崎市竜岡町下条南割591　TEL0551-21-2302
営　業　所●甲府・塩山・韮崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター

Shirasaki Corporation
防草シートを使った緑化や頑固な雑草にお悩みの方は１度ご相談下さい！
自然と人間（みんな）が一緒に幸せになる仕事
株式会社白崎コーポレーション
〒409-3601
山梨県西八代群市川三郷町市川大門5609-1
TEL. 080-2950-9893　FAX. 055-215-2601

会　員　名　簿

50 音順

会　社　名	代表者名	住　　所	電話番号／FAX	E-mail／URL
㈱アセラ技建	久保田茂樹	甲府市蓬沢町 1171	(055)233-4617 (055)233-4633	giken@acera-jp.com
㈱石和植木	齊藤　正隆	笛吹市石和町川中島 378	(055)263-2070 (055)262-4889	isawa@mbd.nifty.com
㈱石原グリーン建設	石原　政人	甲府市高室町 269	(055)241-2001 (055)241-0822	office@green21.co.jp http://www.green21.co.jp
㈱雲松園	大塚　広夫	北杜市小淵沢町 3630	(0551)36-2432 (0551)36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
㈲荻野造園	荻野あさ子	甲府市伊勢四丁目 1-12	(055)235-4045 (055)231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp http://www.oginozouen.com
㈱帯金造園	帯金　岩夫	甲府市池田二丁目 11-12	(055)251-4128 (055)251-4194	office@obikane.co.jp http://www.obikane.co.jp
㈱河口湖庭園	梶原　陽一	南都留郡富士河口湖町船津 4940-1	(0555)72-0635 (0555)72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
㈲窪田造園	窪田　　司	甲斐市中下条 1673	(055)277-2111 (055)277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化㈱	岩田めぐみ	甲府市高室町 721	(055)241-6136 (055)241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木㈱	河野　嘉孝	甲府市下飯田二丁目 5-27	(055)222-4396 (055)222-0555	info@kzd.co.jp http://kzd.co.jp
㈱三枝造園	三枝　正雄	富士吉田市松山 1267-6	(0555)22-1174 (0555)22-2219	yamau.s-zouen@tbz.t-com.ne.jp
㈲坂本造園	坂本　篤彦	韮崎市若宮二丁目 9-39	(0551)22-0301 (0551)22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com http://sakamoto-zouen.com
三協造園㈱	八木　幸彦	西八代郡市川三郷町市川大門 4796	(055)272-6000 (055)272-7777	sankyouzoen@beetle.ocn.ne.jp http://www.sankyo-ls.co.jp
㈲サンリツ造園土木	富岡　信也	中央市若宮 31-11	(055)273-8644 (055)273-8633	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
㈲敷島緑化土木	石水　秀樹	甲斐市島上条 1664	(055)277-2530 (055)277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp http://www.shikishimaryokka.jp/
㈱芝　保	藤原　辰男	甲府市貢川本町 18-20	(055)237-7000 (055)224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp http://shibaho.jp
㈲清水造園	清水　文一	甲府市里吉一丁目 7-21	(055)233-9748 (055)233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
㈲志村樹苗園	志村　好啓	甲府市緑が丘一丁目 4-4	(055)253-6983 (055)253-6985	shimura.sdv4@rouge.plala.or.jp
㈲須田造園	須田　良英	笛吹市八代町米倉 729	(055)265-2452 (055)265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木㈱	今村　尚人	甲府市徳行一丁目 9-27	(055)226-4525 (055)226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://www.chuouzouen.co.jp
辻緑化土木㈱	辻　　宏幸	甲府市朝気三丁目 3-16	(055)233-9545 (055)233-9542	info@tsuji28.net http://tsuji28.net
㈱津々美造園	堤　　明伸	甲府市愛宕町 146	(055)253-2188 (055)253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
㈲東香園	名取　　満	南アルプス市十日市場 1828-1	(055)282-0970 (055)282-0952	tou-kou@eps4.comlink.ne.jp https://tou-kou.jimdo.com/
㈱仲村造園	仲村　清輝	北杜市明野町小笠原 3838	(0551)25-2348 (0551)25-2439	naka-la1@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設㈲	野尻　積道	韮崎市穂坂町宮久保 5122-2	(0551)22-0615 (0551)22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発㈱	志村　和也	南都留郡鳴沢村字富士山 8545-2	(0555)86-3311 (0555)86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設㈱	小俣　賢治	富士吉田市新西原五丁目 2-1	(0555)22-7151 (0555)22-7153	fken@fujikyu-kensetsu.co.jp http://www.fujikyu-kensetsu.co.jp
㈱富士グリーンテック	森　　明彦	甲府市富竹三丁目 1-3	(055)236-1600 (055)224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
㈲美園造園土木	武藤　洋一	甲斐市玉川 1447-4	(055)276-9241 (055)279-8671	misono610@s2.dion2ne.jp http://www.yamanashi-machitsukuri.jp/misonozouen
㈱明桃園	角野　　勝	南アルプス市桃園 968	(055)282-4128 (055)282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン㈱	依田　　忠	南巨摩郡富士川町最勝寺 1514	(0556)22-4181 (0556)22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp
㈲山宮造園	山宮　一哲	甲府市大里町 3608	(055)241-2256 (055)241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
㈲吉井造園	吉井　公人	甲斐市西八幡 4044-6	(055)276-0470 (055)230-6322	yoshii-zouen@ag.wakwak.com

《発行》（一社）山梨県造園建設業協会　〒400-0115　山梨県甲斐市篠原2456-4　TEL055-279-7328　FAX055-234-5160　《発行日》　平成30年1月1日